

## 栽培・加工に向くイタドリの選抜と商品開発

林業試験場 特用林産部 杉本小夜

### 〔はじめに〕

イタドリは山間地域を中心に食される郷土山菜であり、近年、栽培や新たな商品開発に取り組む地域が増加している。収穫量が多く、皮が剥きやすいなどの優良系統苗の供給が望まれているため、県内で収集したイタドリについて特性調査を行い、優良系統の選抜と増殖に取り組んだ。また、新たな活用や新商品の開発に繋げるため、県工業技術センターおよび地域生産者との共同研究により、機能性成分の分析と商品の開発を行ったので報告する。

### 〔試験の方法〕

#### (1) 系統別特性の調査

2014年6月に県内9地域から優良系統候補株としてイタドリを採取し、挿し木により得られた苗(17系統49株)を2015年6月に林業試験場内の圃場に定植した。2016～2019年に各系統の若芽の発生時期や生育状況を調査するとともに、2018年、2019年の3～4月に根元直径1cm以上、長さ30cm以上の若芽を対象に収穫を行い、収穫量、若芽の根元直径および皮の剥きやすさを調査した。

#### (2) 機能性成分の分析および商品開発

イタドリの各部位(茎、皮、若芽の先、花(開花前、開花後)、葉)に含まれる、有機酸量、総ポリフェノール量等について県工業技術センターが分析を行った。また、通常、食用としていないが機能性成分の多い部位を活用して、地域生産者(日高川町生活研究グループ美山支部イタドリ部会)と共同研究により商品開発を行った。

### 〔結果と考察〕

#### (1) 系統別特性の調査

若芽の発生時期は年により多少ばらつきがあるものの、各系統の発生順序は、4年間ほぼ同じ傾向が見られた(表1)。また、収穫した若芽の根元直径、収穫量、皮の剥きやすさについても2018年、2019年の2年間、ほぼ同じ傾向が見られた(図2、3)。このため、若芽の発生時期が早く、太い若芽が発生し、収穫量が多く、皮が非常に剥きやすい「東牟婁3」を優良系統株として選抜した(図1)。17系統の2018年、2019年2年間の1株あたりの平均収穫量は235gであり、「東牟婁3」は約2倍の498gであった。「東牟婁3」は組織培養により増殖を行い、苗は令和2年春から(一財)バイオセンター中津において販売予定である。

#### (2) 機能性成分の分析および商品開発

有機酸については、花や皮にクエン酸が多く、水溶性シュウ酸は茎に多く含まれていた。ポリフェノールについては、通常食用としていない部位である花や葉、皮、若芽の先に多く含まれていた(図4)。これらポリフェノールを多く含む部位を活用し、花と皮をブレンドした健康茶や若芽の先を活用したジャムペーストおよびドレッシングを開発した(図5)。

